

# 競技・スポーツとしての 競馬の魅力

## 柏木集保

世

のなかには、いろんな遊び事があり、そのひとつがホースレーシング。なぜ、世界中で競馬が行われ、多くの人びとが参加しているのか、知りたくなる競走だと思う。

最初は、馬券を当てたいから競馬を知ろうとする。続いて競走馬（サラブレッド）のこと、競馬の世界のことをもう少し知りたいと考えたときが、競馬ファンの出発である。

知識欲あふれる若い日に、学生時代に競馬を始めないと、その全容は見えてこない。人種、宗教、政治……など国々によって大きく異なる人間と違い、アメリカで生産された馬が、アイルランドで育成され、アラブの王族の馬としてフランスで活躍する。イギリスの女王陛下の所有馬や、

ドイツで育った馬が日本で優れた種牡馬となり、その子孫はオーストラリアや南アフリカや東南アジアに移り、南米にもトレッドされる。サラブレッドは、どこにでも移動する。公式な競馬が行われている国は、世界約100カ国近い。

サラブレッドには国境がない。だから、競馬にも国境がなく、無益な紛争を生まないのは本当である。表の顔は賭け事。でも、世界共通の楽しみのひとつがホースレーシングであり、出張したら、その国のダービー馬を称えるくらいのはなしなみは身につけたい。

やがて、日本は1977年以降、世界最大の馬券売上額を誇る競馬大国であり、東アジアだ

けで世界の馬券売上額の半分を占めることを知る。1996年の有馬記念は1レースだけで875億円も売れた。アジア人、なかでも日本人は少しおかしいのではないかと察したあたりで、多くのファンは、なぜ自分はずっと競馬を続けてきたのかを自問自答する。サラブレッドの回転は速い。どんどん世代交代する。ファミリーの栄枯盛衰まで手に取るようになる。30、40年も競馬を楽しんでいると、ある日、自分の人生はたった1回かぎりのはずなのに、もう5代も6代もの馬たちと時代を共有しながら生きてきたことに気がつくのである。



かしわぎ・しゅうほう ●1948年長野県生まれ。73年政治経済学部卒業、日刊競馬新聞社入社。「日刊競馬」の看板予想家として活躍するとともに、テレビの競馬中継の解説者を長年務める。